

第10回 こども急性疾患学寄付講座(神戸市)公開講座
「こどもたちの健やかな成長と健康を守るために」

こどもの蕁麻疹

2014年6月21日

神戸大学大学院医学研究科

内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門

忍頂寺 毅史



一般財団法人神戸市小児救急医療事業団



本日のお話し

1、蕁麻疹とは？

2、たかが蕁麻疹・されど蕁麻疹

3、病院でできること、家でできること



1、蕁麻疹とは

- ✓ 普通ではない皮膚の発疹
 - ✓ 赤い(紅斑)
 - ✓ くっつきり盛り上がる(膨疹)
 - ✓ 一部だけ(限局性浮腫)
-
- ✓ しばらくすると跡形もなく消える(一過性)
-
- ✓ 多くの場合かゆい



蕁麻疹とは



一般財団法人神戸市小児救急医療事業団

 **神戸こども初期急病センター**

なぜ起こる？



- ✓ 皮膚の小さな血管が一時的に膨らみ、血液の中の血漿と呼ばれる成分が周囲に滲み出した状態



原因(1)

✓ 食物:

魚介類(サバ、マグロ、サンマ、エビ、カニなど)

肉類(豚肉、牛肉、鶏肉など)

卵、乳製品(鶏卵、牛乳、チーズなど)

穀類・野菜(大豆、小麦、ソバなど)

食品添加物:人工色素(黄色、赤色など)、防腐剤(パラベンなど)

✓ 薬剤:

抗生物質、解熱鎮痛薬

咳止めなど



原因(2)

- ✓ 植物・昆虫：
イラクサ、ゴム、蜂など
- ✓ 感染症：
寄生虫、真菌(カビ類)、細菌、ウイルス
- ✓ 物理的刺激：
機械的擦過、圧迫、振動
寒冷、日光、温熱、運動・発汗
- ✓ 内臓・全身性疾患：
血液疾患、膠原病、血清病など
- ✓ 疲労・ストレス：
- ✓ 原因不明



特殊な蕁麻疹

✓慢性蕁麻疹:

毎日のように繰り返す症状が現れる蕁麻疹のうち、発症して1ヶ月以上経過したもの。原因が特定できないことが多い。

✓血管性浮腫

唇やまぶたなどが突然腫れ上がり、2～3日かかって消える。痒みを伴わない。稀に遺伝性のものである場合がある



本当に皮膚(ぶつぶつ)だけ ですか……？



一般財団法人神戸市小児救急医療事業団

 神戸こども初期急病センター

2、たかが蕁麻疹、されど蕁麻疹



命にかかわるアレルギー反応＝アナフィラキシー



News

日本経済新聞

給食後に小5が死亡 東京・調布、アレルギー反応か

2012/12/21 13:03

[保存](#) [印刷](#) [リプリント](#)

東京都調布市小島町の市立富士見台小学校で、乳製品にアレルギーがある小学5年の女子児童(11)が給食後に体調不良を訴え、搬送先の病院で死亡していたことが21日、警視庁調布署などへの取材で分かった。

同署や市教育委員会によると、女子児童は20日昼の給食で、他の児童用で余っていたチーズ入りチヂミを食べた後に「気持ちが悪い」と訴え、学校側が119番。病院に運ばれたが約3時間後に死亡した。急性アレルギー反応の「アナフィラキシーショック」で死亡したとみられる。

女子児童はチーズや卵にアレルギーがあり、通常は該当する食品を除いた給食を食べていた。同署は詳しい状況を調べている。



一般財団法人神戸市小児救急医療事業団

 **神戸こども初期急病センター**

アナフィラキシーの年間死亡者数

西暦年	2005	2006	2007	2008	2009
有害食物によるアナフィラキシー(人)	1	5	5	4	4
アナフィラキシー、詳細不明(人)	14	6	12	10	7
血清によるアナフィラキシー(人)	1	1	1	0	1
薬物の有害作用によるアナフィラキシー(人)	31	34	29	19	26
スズメバチ、ジガバチ、ミツバチとの接触(人)	26	20	19	15	13
合計(人)	73	66	66	48	51

厚生労働省 人口動態統計より一部改変



一般財団法人神戸市小児救急医療事業団

 神戸こども初期急病センター

アナフィラキシーの原因

- ✓ 食物:
 - 魚介類(サバ、マグロ、サンマ、エビ、カニなど)
 - 肉類(豚肉、牛肉、鶏肉など)
 - 卵、乳製品(鶏卵、牛乳、チーズなど)
 - 穀類・野菜(大豆、小麦、ソバなど)
 - 食品添加物:人工色素(黄色、赤色など)、防腐剤(パラベンなど)
- ✓ 薬剤:抗生物質、解熱鎮痛薬、咳止めなど
- ✓ 植物・昆虫:イラクサ、ゴム、蜂など(触れたり刺されたりして起きる)
- ✓ 感染症:寄生虫、真菌(カビ類)、細菌、ウイルス
- ✓ 物理的的刺激:機械的擦過・圧迫、寒冷、日光、温熱、振動、**運動**・発汗
- ✓ 内臓・全身性疾患:血液疾患、膠原病、血清病など
- ✓ (疲労・ストレス:身体的なもの、精神的なもの)
- ✓ 原因不明



特殊なアナフィラキシー(1)



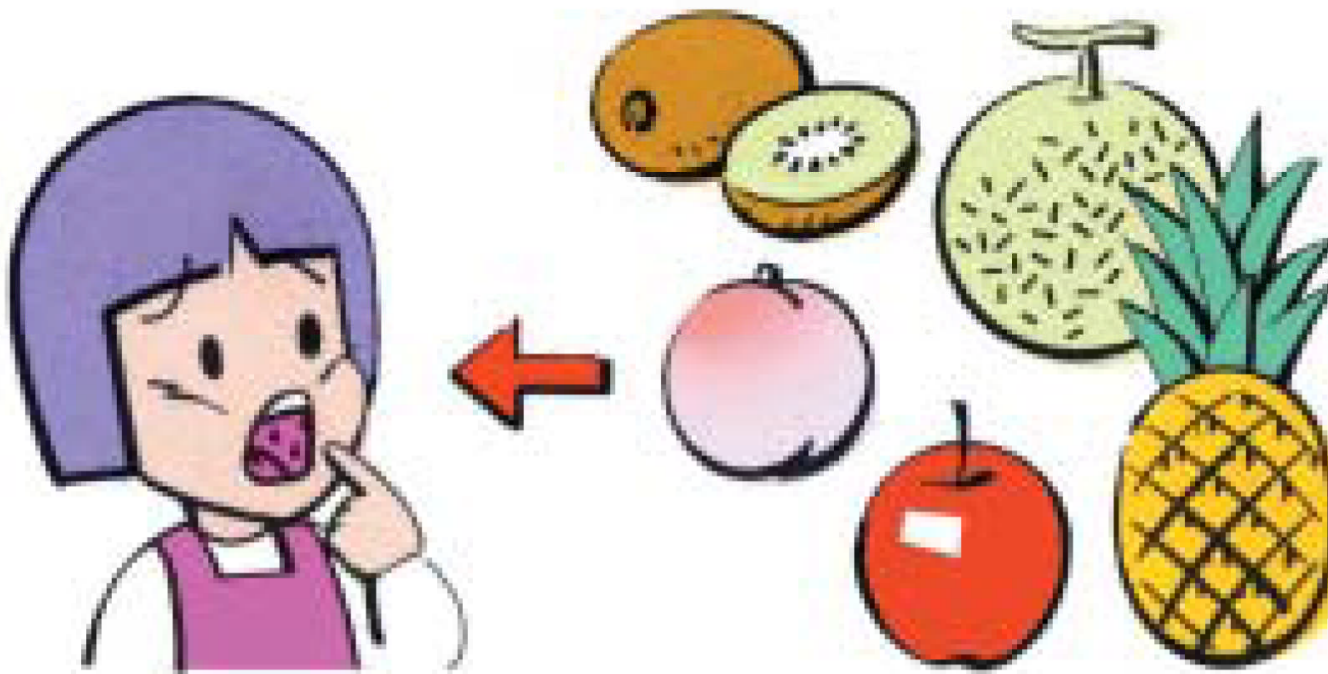
食物依存性運動誘発アナフィラキシー



一般財団法人神戸市小児救急医療事業団

 神戸こども初期急病センター

特殊なアナフィラキシー(2)



口腔アレルギー症候群



気を付けるべき症状

✓呼吸に関わる症状

声のかすれ のどのかゆみ ぜーぜー

✓おなかに関わる症状

腹痛 吐き気

✓その他

顔が青白い 視覚がおかしい

意識がおかしい

<乳幼児>

何となく元気がない 不機嫌

すぐ眠ってしまう



症状と重症度

初期の症状	口内違和感、口唇のしびれ、四肢のしびれ、気分不快、吐き気、腹痛、じん麻疹など
中程度の症状	のどが詰まった感じ、胸が苦しい、めまい、嘔吐、全身のじん麻疹、ゼーゼーして苦しくなる
強い症状	呼吸困難、血圧低下、意識障害



3、病院でできること、家でできること

<病院でできること>

診察・検査

事前にある程度予測可能

未来の対策

<家でできること>

アレルギーの除去

学校・幼稚園・保育園に連絡

起こった時に対する備え



©fumira



一般財団法人神戸市小児救急医療事業団

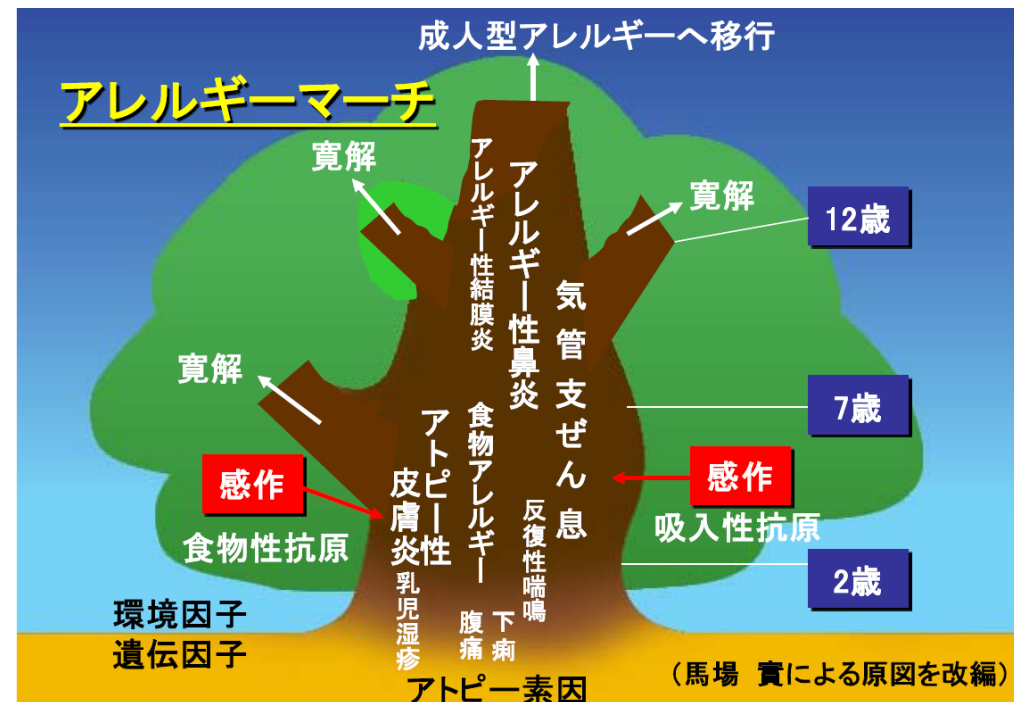
 神戸こども初期急病センター

診察

蕁麻疹・アナフィラキシー以外のアレルギー

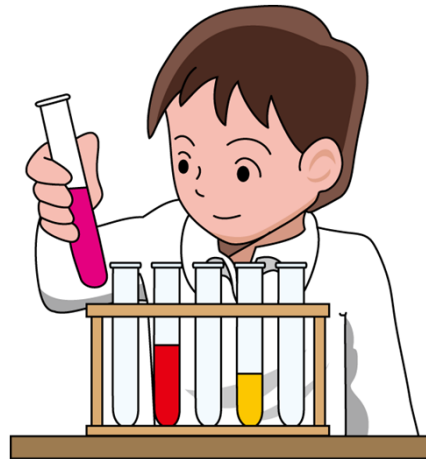
- ・アトピー性皮膚炎
- ・気管支喘息
- ・アレルギー性鼻炎
- ・アレルギー性結膜炎
- ・食物アレルギー

家族のアレルギー



検査

血液検査



ヒスタミン遊離試験

皮内反応



血液検査

- ✓ もっとも一般的な検査方法
- ✓ IgE抗体の量でアレルギーの程度を推測する

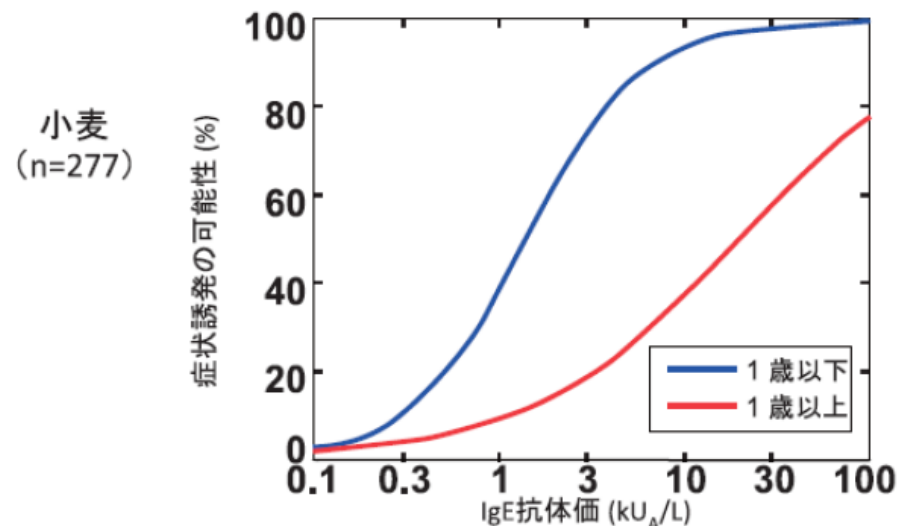
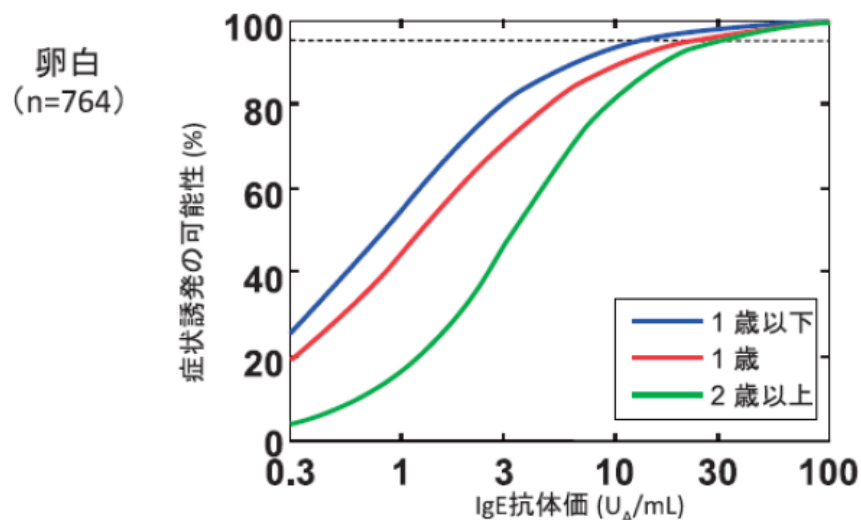
→ 診断ではない

症状と合わせた活用を！

* アナフィラキシーが起こった場合は2週間以上待ってから検査することが望ましい



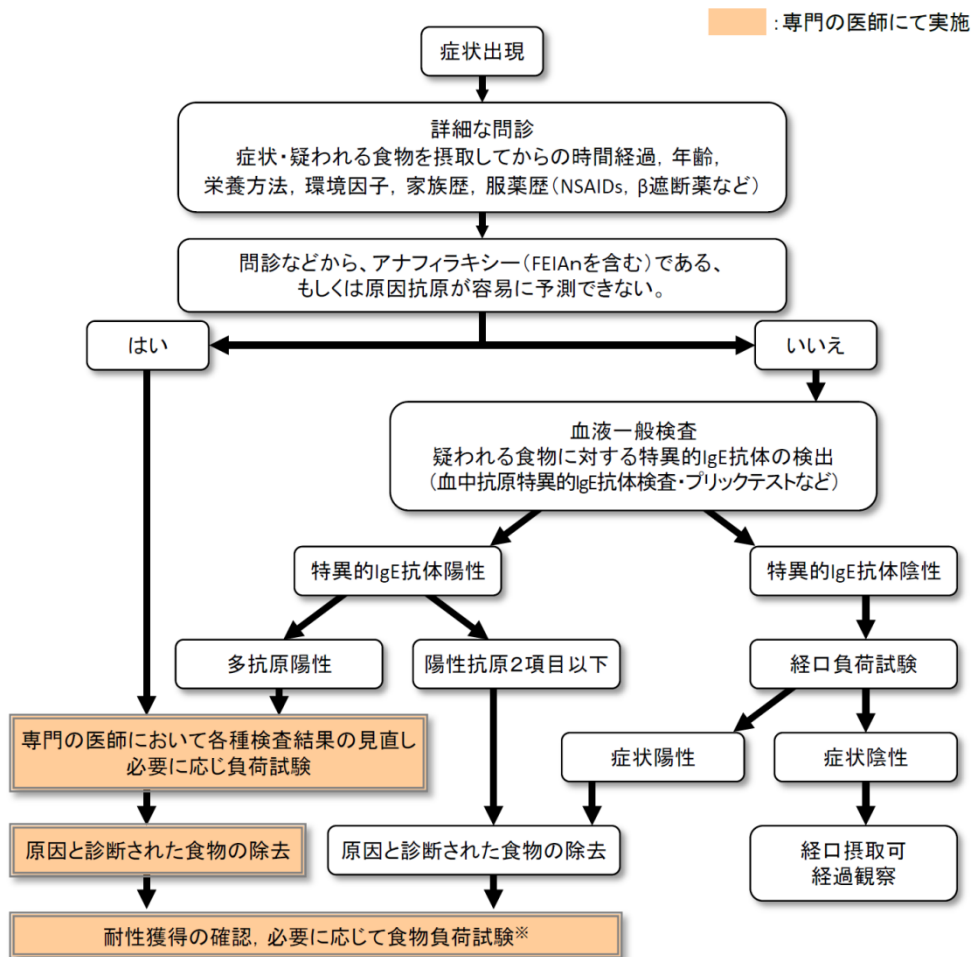
血液検査の落とし穴



- ✓ 検査値(IgE値)が同じでも年齢によって解釈・信頼度が異なる
- ✓ 抗原(食物)によって検査の解釈・信頼度が異なる
- ✓ 仮に高い値でも即症状につながるかはわからない



病院でできること



免疫療法

- ✓ 連日原因食物を少しずつ食べていくことで、原因食物が食べられるようになる
- ✓ 2013年4月現在では鶏卵、牛乳、小麦、ピーナッツアレルギーの児が対象
- ✓ 専門施設での実施が望ましい



家でする対策～予防～

✓原因となる食物・薬剤を避ける

■加熱・加工状態・摂取量を考えて除去程度を決定

■いつまでかはものによる

・卵・小麦・牛乳・大豆は多くは小学校に上がるまでによくなる

・果物・甲殻類・ピーナッツ・そばは一生

■学校や幼稚園・保育園などにも情報提供



対策～早期発見・早期対処～

食物アレルギーによる症状への対応 ¹⁴

- アレルゲンを含む食品を口に入れた時
口内違和感は重要な症状

口から出し、口をすすぐ
大量に摂取した時には飲み込ま
せないように注意して吐かせる

- 皮膚についた時
さわった手で眼をこすらないようにする

洗い流す

- 眼症状（かゆみ、充血、球結膜浮腫）が出現した時

洗眼後、抗アレルギー薬、
ステロイド薬点眼

緊急常備薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、副腎皮質ステロイド薬など）を内服し、症状観察

- ① 皮膚・粘膜症状が拡大傾向にある時
- ② 咳嗽（せき）、声が出にくい、呼吸困難、喘鳴、傾眠、意識障害、嘔吐・腹痛などの皮膚・粘膜以外の症状が出現した時

← エピネフリンの自己注射器を児童・生徒が
携帯している場合は投与を考慮

医療機関受診（救急車も考慮）

30分以内に症状の
改善傾向が見られるとき

そのまま様子を観察

ショックの対応

意識の確認

名前を呼ぶ、頬をたたく、体をゆするなど刺激して、反応するかどうか

意識がない

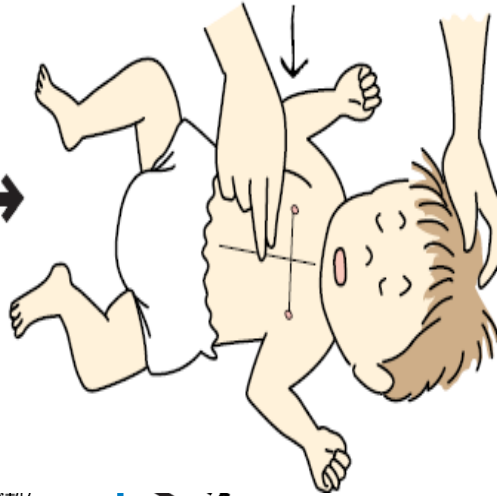
気道確保

人工呼吸2回



循環のサインをみる

心臓マッサージ5回



繰り返す

人工呼吸1回



循環のサインがない

心臓マッサージ

心臓マッサージ5回+人工呼吸1回のセットを1分間続ける

回復体位にして、119番通報

大声で助けを呼ぶ
近くに人がいれば
119番通報してもらう

回復体位 救急車を待つ

呼吸が不十分であれば人工呼吸は続ける
(3秒に1回ぐらい)



エピペン注射



一般財団法人神戸市小児救急医療事業団

 神戸こども初期急病センター

まとめ

- ✓ 蕁麻疹はありふれた疾患であるが原因が多岐にわたる
- ✓ 全身の症状があるときはアナフィラキシーと
考えて早期の対策を行うべきである
- ✓ 突然症状が出た時に備えて普段から対処・
予防法を考えておく



参考文献

- 日本皮膚科学会：蕁麻疹診療ガイドライン
- 日本アレルギー学会：食物アレルギー診療ガイドライン2012
- アナフィラキシーの評価及び管理に関する世界アレルギー機構ガイドライン
- アメリカ小児科学会ガイドライン
- 食物アレルギーによるアナフィラキシー学校対応マニュアル（小中学校編）
- 厚生労働省：重篤副作用疾患別対策マニュアル（アナフィラキシー）

